



## 水俣市

中部大学ESDエコマネーチームは、汚染予防の重大さを示す、水俣の教訓の継承や環境・社会・経済のサステナビリティ(持続可能性)の重要性を認識しながら、環境研究を進めるとともに、学生主体の活動を通じて環境・社会・経済に関する物事をみる力を養っています。

2009年のチーム発足以降、水俣市を定期的に訪問し環境課の職員を対象に教材実演を行うことで、標準化教育の連携も行ってきました。

2018年は水俣市ISO委員会において全部署の職員を対象にSDGsと超スマート社会の標準化教材「[世界を救え](#)」を用いた研修を行いました。それぞれの部署の職員が少し先の未来を想定し、担当職員としてSDGsやスマート技術を用いて現状を踏まえながら将来実践したい内容を提案しました。それぞれの部署から出てきた意見を基に水俣市のSDGs戦略立案に反映をしました。実際の政策立案において標準化教材を活用した点が特徴です。



## 愛知県

2009年よりESD推進の観点から連携をしています。2009年国際生物多様性の日記念イベント、2014年あいち・なごやESD交流フェスタ、2015年 Lets エコアクションin AICHIに出展しました。当該年度に開発した教材を用いた標準化教室を行いました。

2016年から2019年はブース出展に加え、愛知県と共同で企画運営を担当し、他の出展団体と共同でSDGsを広く県民に発信しています。

また2015年以降、愛知県の主催する[かがやけあいちサステイナ研究所](#)の研究者として学生が以下の企業のSDGsプロジェクト支援を行っています。三井住友銀行、ユニー、名鉄観光、ミツカン、IKEA 新日鐵、トヨタ車体、メニコン、吉本興業、日本ガイシです。



2009



2011



2014



2015



2016



2017



2018



2019



## 春日井市

2013年よりESD推進の観点から連携をしています。5月に開催される春日井わいわいカーニバルに2016年以降出展しています。こども向けイベントでは、愛知県青少年育成アドバイザーと共同で2016年度より出展し、情報リテラシー教育を推進するためスマホの適正利用の紙芝居を実演しています。この実演を通じて人前での話し方や来場者との接し方を学習します。

10月の春日井まつりエコワールドには2013年より出展しており、春日井市民を対象にその年に開発した標準化教材を用いた標準化教室を開催しています。さらに11月の春日井ビジネスフォーラムには2016年より中部大学の依頼に基づき出展しており、地元の高校や企業に対して標準化教室を開催し、標準化や、SDGs活動、消費者が安心できる方法を検討する機会としています。



2013



2017



2018



2019

## 日進市

2015年よりESD推進の観点から連携をしています。2015年は環境フェスティバルに出展し標準化教室を行うとともに日進市と共同でイベント運営を担当しました。

2016年より環境+まちづくりを目的としたにしんわいわいフェスティバルにブース出展するとともに日進市内に立地する大学と連携した企画を通じて若者の視点でESDを推進しています。



2015



2017



2018



2019



# 名古屋市

City of Nagoya

## 名古屋市 環境

2011年よりESD推進の観点から連携をしています。環境デーなごや中央行事に毎年出展し、当該年度に開発した教材を用いた標準化教室を開催しています。

2011年はなごやユニバーサル・エコ・ユニット活動の推進を行い、名古屋の大学と環境プログラムを通じた人的交流や大学祭における環境配慮活動の展示を行いました。

2019年はCOP10の10周年記念企画として[生物多様性×SDGs啓発動画](#)を開発しました。



2012



2013



2014



2015



2016



2017



2018



2019



2020



# 名古屋市

City of Nagoya

## 名古屋市 消費者

2017年よりESD推進の観点から連携をしています。持続可能な開発を実現するためには大量生産・大量消費・大量廃棄から持続可能な生産・消費へのライフスタイルへの移行が重要な課題です。持続可能な開発目標SDGsを実現するためには環境以外にも社会や経済を考慮する必要があります。持続可能な社会に向けた戦略的なシフトが必要不可欠と叫ばれるなか、持続可能な地域企業の成長と高い倫理観を持って環境、社会、ガバナンスの面で優れた企業に投資するESG投資など重要性が高まっています。

昨今、大規模震災や気候変動リスク、そして今回のような新型コロナウイルスによる世界的パンデミック等から企業のリスクが大きくなるなか、新しい生活様式の実践「災害支援」「応援消費」「環境」に配慮した消費、「人」や「社会」に配慮した消費、「地域」に配慮した消費といった消費活動。また、ものやサービスを選ぶとき、「どこでつくられたのか」、「環境にやさしいか」などを考える、エシカル消費を通じた消費者の役割が注目されています。

中部大学ESDエコマネージャーチームでは持続可能な消費、中でも購買に焦点をあて、そのあり方を学生が学び、教材を開発し、高大連携を通じて若者の意識改革を行うこと、また名古屋市消費生活フェア等のイベント出展を通じて教材を実演することで名古屋及び周辺地域の市民の持続可能な消費に関する意識や行動の変化を促す提案をすることを目的とし名古屋市と連携しています。



2017



2018



2019

Coming Soon

2020





中部大学ESDエコマネージャーチーム  
春日井市松本町1200  
中部大学経営情報学部  
伊藤佳世研究室  
Tel 0568 51 9968  
Fax +41 22 999 0002  
[https://www3.chubu.ac.jp/faculty/ito\\_kayo/](https://www3.chubu.ac.jp/faculty/ito_kayo/)

